臺灣日日新報
號外（第二）
（第三種郵便物認可）
昭和十六年十月十七日
發行編輯人 江口済作
發行所 臺北市本町四丁目三十二番地 臺灣日日新報社

東條陸相大命を拜受
組閣順調に進行
組閣本部は陸相官邸

東條陸相記者團に語る

【東京發同盟】東條陸相は組閣の大命を拜して宮中を退出後、陸相官邸に入つて左の如く記者團に語つた

唯今組閣の大命を拜しました、誠に恐懼の至りです、暫くの御猶豫を乞ひ奉り御前を退下しました

【東京發同盟至急報】御召に接した東條陸相は十七日午後四時三十分三宅坂の陸相官邸を出で同卅五分宮中に參内した

【東京發同盟】十七日午後組閣の大命を拜した東條陸相は恐懼して暫時の御猶豫を乞ひ奉つて御前を退下、内大臣府に於て木戸内府と會見の後同五時廿分宮中を退出、同夜は取敢ず陸相官邸を組閣本部として直ちに組閣工作に着手した（寫眞は東條陸相）

及川海相を御召
優渥なる御言葉を賜ふ

【東京發同盟至急報】天皇陛下に於かせられては十七日午後四時三十五分東條陸相に對し後繼内閣組織の大命を降下あらせられ、次いで同四時五十分及川海相をも宮中に召させられた【寫眞は及川海相】

【東京發同盟】天皇陛下の御召に依り參内拜謁仰付られた及川海相は優渥なる御言葉を賜はり恐懼御前を退下し別室にて木戸内府と會見、午後五時二十分宮中を退出、海相官邸に入つた

陸海軍不壞の協調
國民待望の新内閣來る

【東京發同盟】後繼内閣組織の大命は十七日午後四時三十五分陸軍大臣東條英機中將に降下した、而して十六日午後五時近衞首相が閣僚の辭表を捧呈總辭職を決行してから二十四時間、この間激動する國際情勢を背景に全國民と世界各國の注視をこの一點に集中してわが國政治の最高中樞は國策遂行の方途に關する意見不一致を克服して強力不壞の政治力を確立すべき努力を繼續、緊張せる第一線を醸つたのである

近衞内閣總辭職の後、後繼内閣の首班に關し畏くも御下問を拜した木戸内府は今回の總辭職の理由が「國策遂行の方途に關し遂に意見の一致を見る事能はざるに立到りたるを以て」といふ異例の事情に鑑み、然も緊迫度を一段と加重せる目前の國際情勢の下に於ては一刻も早く強力なる後繼内閣の實現を圖らねばならぬので、陸海軍首腦を始め各方面の情勢を慎重考慮しつつ構想を練らし一夜を過した

明けた十七日は神嘗祭、午前中の宮中の御儀も滯りなく終へて午後一時より宮中西溜の間に於て御下問奉答のため意見を交すべき重臣會議が開かれた、參集したのは岡田啓介海軍大將、廣田弘毅氏、林銑十郎陸軍大將、若槻禮次郎男、米内光政海軍大將、阿部信行陸軍大將等の總理大臣前歷者並に原嘉道樞府議長、特に前回の重臣會議に缺席した清浦奎吾伯が病める老軀を押して熱海から馳せ參じたのが時局の重大さを物語る、重臣會議は前後三時間に亙つた、全國民は、我が國が直面せるこの重大時局を毅然として戰時體制を果敢に推行する新内閣の出現を待望してゐる、即ち

一、この時局を乘切るためには一切の對立を克服した一層強力なる擧國一致態勢に陸海兩軍部の連絡協調が緊要であり、又

一、支那事變處理、東亞共榮圏の確立を遂行するためあらゆる障害を排除して總國力の發揮を強化前進するため國民の陣頭に起ち、活潑に國策の推進をなすべき新内閣の成立を希求してゐたのである

重臣會議は同三時四十五分散會した、斯くて木戸内府は重臣會議の意見に基き東條陸相を後繼内閣の首班として奏薦し奉つたのであつた

木戸内府奉答

【東京發同盟至急報】木戸内府は重臣會議の結果に基き十七日午後四時二十分後繼内閣首班として東條陸相こそ然るべき旨奉答した

青木顧問辭表提出

【東京發同盟】在南京の外務省顧問青木一男氏は十七日豐田外相の手許に辭表を提出した

聖斷仰ぎ奉る畏こさ
神嘗祭御親祭の日の大命降下

【東京發同盟】東條中將が後繼内閣の大命を帶びて大命を拜した十七日は神嘗祭當日であり、この朝宮中賢所では畏くも天皇陛下御自ら賢所大前に御拜禮、御親祭あらせ給うた、御祭文を奏し給ひ　玉音いと御高らかに時局御軫念の程が上にも畏く參列の文武百官等は只恐懼し奉つた、斯くて御儀を終へさせ給うた陛下には神宮の御儀終了までの午前中は御奉仕に過ごさせられたが、やがて午後一時からは宮中西溜ノ間に於て重臣中最長老の清浦伯も參内して二時間五十分に亙る重臣會議が開かれ　聖斷を仰ぎ奉るため木戸内府は四時過ぎ拜謁仰せつけられ御下問に奉答したのであつたが陛下には次で百武侍從長に拜謁仰せつけられ、更に同四時三十五分東條陸相を召され、戰時下第七代目の内閣首班として大命を降し給うた、十六日近衞内閣の總辭職以來深く宸襟を惱まし給へることは拜察するだに畏れ多い極みであるが陛下には更に及川海相に拜謁仰せつけられた御後、同五時過ぎ入御あらせられた

陸軍三長官會議
總長、總監、陸相を激勵

【東京發同盟】陸軍では十七日午後七時より陸相官邸に東條陸相、杉山參謀總長、山田教育總監の三長官會議を開催、先づ陸相より後繼内閣組閣の大命を拜受した旨を報告してその協力方を求め杉山總長、山田總監は之を諒として陸相を激勵した後種々要談を遂げ同七時五十分散會、杉山、山田の二長官は官邸を辭去した

杉山參謀總長組閣本部に入る

【東京發同盟】杉山參謀總長は十七日午後六時五十五分組閣本部に當られた陸相官邸に入つた

海軍省部聯合會議
特に呉鎭長官も出席

【東京發同盟】海軍では十七日午後參内畏くも優渥なるお言葉を賜はつた及川海相の退下するのを待つて同日午後六時より海相官邸に省部聯合首腦會議を開き、本省側より及川海相、澤本次官、岡軍務局長、軍令部側から永野總長、伊藤次長、福留第一部長、特に呉鎭長官豐田副武大將等出席、種々重要協議を遂げた

組閣本部招致の人

賀屋興宣氏

【東京發同盟】北支開發會社總裁賀屋興宣氏は十七日午後十時二十五分組閣本部に入つた

寺島　健氏

【東京發同盟】浦賀船渠社長海軍中將寺島健氏は十七日午後十時廿六分組閣本部に入つた

星野直樹氏

【東京發同盟】星野前企畫院總裁は十七日午後十時三十分組閣本部へ入つた

橋田邦彦氏

【東京發同盟】橋田文相は十七日午後九時四十五分陸相官邸の組閣本部に入り同十時五分辭去した

五人目の現役總理
現下時局の重大性反映

【東京發同盟】現役將官のまま内閣總理大臣となつた例は過去に於て陸軍三人、海軍一人で今度の現役陸相東條中將を加へて合計五度目である

現役將官としては最初に山縣有朋公、現役陸軍中將のまま明治二十二年十二月黒田清隆伯のあとを襲つて内閣の主班となり、更に明治三十一年十一月大隈内閣の後に次で山縣第二次内閣を組閣してをり、次で桂太郎公も亦現役大將のまま明治三十四年六月組閣の大命を拜し約四年七ケ月の長きに亙つて首相の印綬を帶び日露戰爭を遂行したが、公は日露役後一旦豫備役に編入され明治四十一年七月西園寺内閣の後を襲で再度第二次桂内閣を組織した時、特旨を以て現役に服せしめられて首相となつた、現役陸軍將官の總理としてはヨーロッパ大戰中の大正四年十月元帥寺内正毅伯が總理となつてゐるが、海軍大將としては大正十一年六月加藤友三郎男がワシントンに於ける海軍軍縮會議の手腕を買はれて特に現役のまま總理となつた例が一つある

現役將官で總理となつた人の内で陸軍中將は第一次山縣内閣の時の山縣有朋公と東條英機中將との只二人きりで、本年取つて五十八の現役陸相を直ちに移して内閣の首班とした事は如何に現下時局の重大性が人材を要望してゐるかが解る

父子相傳の軍略
更に加ふ剃刀の才氣

【東京發同盟】近衞第三次内閣總辭職の後を承けて緊迫せる内外重大時局下組閣の大命を拜した東條英機中將は本年五十八歳、早くから陸軍部内の逸材として部内外から注目されてゐた

先年兇刃に斃れた永田鐵山中將が東條こそ將來の陸軍を背負つて立つべき人物だと絶えず推稱して既に今日あるを豫想してゐたが、この推賞は正に的中した譯で、大正四年歐洲大戰後敗戰直後のドイツに渡りドイツ兵學を中心にヨーロッパ軍事情を研究して歸朝、その後參謀本部と陸軍省を一通り勉強し軍政家としての素質のみならず、政治家としての素質も次第に大きく育くまれて行つた

日露戰爭に大きな足跡を殘した川上操六大將を補佐して智將の明え高かつた英教中將を父に持つ英機中將は然しどちらかと云へば明治以後軍人の典型的共通性とされて來た素朴粗大より寧ろ頭腦明晰、神經尖鋭しかも事に動ぜぬ胆を持つ近代型武人で父中將には見られぬ剃刀の如き才氣の閃きを持ち、しかも力強く逞しい努力がある、父は軍令に子は軍政から國政へ夫々主脳に棹さしたことは東條武門の誉、萬丈の氣を吐くものである

東條中將略歷

【東京發同盟】組閣の大命を拜した東條英機中將は東京府士族故陸軍中將東條英教氏の長男で明治十七年十二月東京に生れ士官學校十七期の歩兵科出身、陸大を優等卒業後ドイツに駐在、その後陸軍省整備局動員課長、陸軍技術審査部員、歩兵第一聯隊長、參謀本部課長兼陸軍通信學校研究部員、同自動車學校研究部員、陸軍省調査委員、陸軍士官學校幹事に榮補、昭和八年三月陸軍少將に進級、同九年八月歩兵第二十四旅團長に補せられ、同十一年十二月陸軍中將に累進、關東軍憲兵司令官を經、板垣陸相の後を承けて同十二年三月關東軍參謀長となり同十三年五月陸軍次官に轉じ同十二月陸軍航空總監兼陸軍航空本部長に就任、同十五年七月第二次近衞内閣の陸軍大臣となり引續いて第三次近衞内閣に留任現在に至つた

組閣速かに完了
東條陸相側近者談發表

【東京發同盟】組閣本部では十七日午後十時五十分左の如き東條陸相側近者談を發表した

東條陸相側近者談（午後十時五十分）大臣は本日後繼内閣組織の大命を拜して恐懼感激その重責を痛感せられ明治神宮、靖國神社、東郷神社に參拜し誠心一無雜の心境を以て先づ官邸に於て陸軍三長官と會同の後、私室に退いて靜思熟慮し關係方面との折衝を開始せられた、組閣の方針は今云ふべき限りではないが、擧國一體の既定國策を完遂すべき態勢を整へんとするは勿論である、閣僚の人選については閣員名簿を捧呈までは一切これを發表すべきものではないと考へて居られる、なほ組閣に關しては緊迫せる時局下一刻も速かに完了すべく愼重に努力して居られることは勿論である

明治神宮、東郷神社
九段の英靈を巡拜
神明の加護を祈る陸相

【東京發同盟】大内山の緑も濃き黄色の霧にかすむ十七日午後五時二十二分坂下門の黑い門扉が眞一文字に開かれて東條陸相と及川海相の二臺の自動車が滑り出して來た、後繼内閣組織の大命は東條さんに下つたのである、赤「淺一」は宮城前から赤坂見付、溜池外苑を物凄いスピードで通り抜けてやがてぴたりと止つたのは明治神宮前だつた

超非常時の秋組閣の大命を拜して先づ　明治大帝の大前に奉告　時局突破を誓ふ姿である、自動車を捨てた東條さんの靴音が人影一つ無く寂として森厳の氣一入強る參道に力強くこだまする　深い感銘の幻影に浮び出した斷乎たる決意に燃る眉宇、きゆつと眞一文字に結ばれた口、昇殿前に進んだ東條さんは軍帽を脱いで靜かに額づいた一分、二分　夜の神前に深く頭を垂れた東條さんの姿は身動き一つしない

神域森々たる中に今こそ新たなる發足の誓ひがなされたのである、拜禮を終つた東條さんは靜かに踵を返して明治神宮を出ると今度は途中東郷神社に參拜して、更に靖國神社へ、ここで東條さんに大命降下のことを知つた參詣の軍人や市民達が感激をもつて迎へる中を神殿に進み、護國の英靈に敬虔な祈りを捧げた、ロイド眼鏡の奥に目がきらりとうるんでゐる、新たなる決意を嚙み締めるやうな相變らずの顔だ、かくて明治神宮、靖國神社參拜を終へ東條さんは直に永田町の陸相官邸に入り組閣に着手した

建川大使もモスクワを出發

【東京發同盟】十七日外務省に入つた公電に依れば、建川大使は陸海軍武官等二十名及び東日、同盟兩特派員と共に十六日午前モスクワを出發東部某地に向つた、モスクワの大使館には高橋參事官、小林大使館員、佐々木陸軍武官補佐官、朝日特派員の四名が留守中

財界は頗る好感
新首相の實行力に期待

【東京發同盟】第三次近衞内閣の總辭職斷行に際し財界は極めて冷靜なる態度を持し後繼内閣が強力なる純戰時内閣として財政、金融、產業、貿易、勞務等各部門に於て既に確定された戰時經濟諸體制の鞏固を待望してゐたが、組閣の大命が東條陸相に降下し以上速かに後繼内閣の成立を強化しうるに至つた點これに依つて時局の重大性を愈々痛感すると共に新内閣に全幅の協力を致し官民一體時艱克服に邁進すべき決意を表明してゐる

即ち近衞内閣は總辭職に當り國策の方途に關し意見の不一致を見るに至つた旨を述べてをり、經濟界としてもこれに深甚の關心を寄せざるを得なかつたが、東條内閣の急速且つ圓滑なる成立によつて、この點に關する憂慮は一掃さるべく、政戰兩略の渾然たる一體化に基く強力なる政治力の發現が期待される

而して新内閣の經濟閣僚として何人が登場するか解らないが、臨戰經濟體制の整備と並行すべき行政機構の改革刷新に關しても十分新首相の實行力に期待し得るところであり、更に戰時經濟の圓滑なる運營に就いても適切なる物價施策と一層周密なる配慮が用意されるものとして期待してゐる

九十二の老軀に
誠忠溢るるこの秋
悲壯な清浦伯の東上

【東京發同盟】近衞内閣總辭職の一夜が明けて新しい日本建設の生みの惱みに、官も民も唯恐懼重苦しい空氣の中で十七日、四年來熱海の別莊に引籠つて一切の俗塵を避け九十二歳の老齢を養つてゐた重臣中の最長老清浦奎吾伯が病と不自由の老軀を提げて突如悲壯な上京である「今日こそ老軀を御國に捧げる最後の御奉公ぢや」と主治醫や周圍の引止めるのも振切つて重臣會議に臨んだのであつた

近衞内閣總辭職の報は熱海の清浦伯別莊にも十六日の夜けたたましい電話のベルとなつて傳はつた、二・二六事件以來殆んど熱海の別莊に引籠つたきりで持病の喘息を養ひつつ靜かな日々を送り重苦しい政治の話は一切やめて僅かに謡の具合を見て[illegible]光風霽月の樂を樂しんでゐた老伯は「總辭職」の報にウーンと一唸りしてベットから起き上つた、附きりで伯の健康に留意してゐる大森醫學士外側近の人々は驚いて制止しようとしたが老伯はこれを厳として退けた

今までの度々の政變には曾つて見られなかつた老伯の態度である、大森醫學士の語るところに依ると伯は「困つた、困つたな」と一言、後は黙々として深い沈思に入つたが、今こそ最後の御奉公を捧げる時が來たと心中に深い決意を秘めたかの如くであつたと云ふ、やがて「明日の會議に上京する用意をたのむ」と命ずるとその態度に戰いた、主治醫の大森醫學士は「階段一つお上りになれないお身體では」と頻りに止めたが、伯は只「私は途中で斃れても良い、今度は行きます」と頑として聽かない、悲愴の一夜が明けて十七日午前七時二十分熱海發列車の展望車に老伯は八十四になる孫子夫人、大森醫學士、外側近男代議士、竹山秘書等に見送られながら靜かに從はつた

列車が新橋にさしかかると老伯は初めて靜かに口を開いた「どうかと思つたが案外樂ぢや、四年振りの東京見物になつたね」東京驛に着くと荷物を運ぶトロッコに帽子のまま乘せられ竹山執事等に抱かれて鐵道ホテルの三階へ、やがて午後零時半重臣會議出席の爲に老伯は四輪車の移動椅子に腰かけたまま靜かに威儀を正した

茶のソフト帽、いかめしい劍九紋の羽織に紫の袴、クリーム色の襟巻に竹の杖、そして老伯の眉ばかりのやうな白髪が膝の上に正しく組合はされた「會議に行く時間だ」と眼の底から絞り出すやうに描いた切れ切れの言葉を一言殘して再び抱かれるやうにして東へ、そして宮中へ大森醫學士と孫婦の外老伯の傍らには悲壯な決意を語るやうに酸素吸入器が用意されてゐた

ソ聯遷都を準備
政府一部出發す
各國使節團とカザンへ

【ロンドン十六日發同盟】U・P ロンドン支局へモスクワから入つた情報に依ると、ソ聯政府の一部はモスクワ駐在各國大公使館と共に十六日午前四時半特別列車でモスクワのカザン驛を出發、東方へ向つた、行き先に就いては公表が無いが、一旦モスクワ東方約千粁のカザン又はその南方のクイビシエフへ赴くものと信ぜられてゐる

羅軍第四軍オデッサに入城
羅國外相放送

【ブカレスト十六日發同盟】ミハイ・アントネスコ・ルーマニア外相はルーマニア軍のオデッサ入城に就き十六日夜ルーマニア國民に對しラジオ放送を以て次の如く發表した

余はルーマニア第四軍が敵の防禦線を突破した後、十六日午後各方面からオデッサ市内に入城したとの發表を報告する名譽を有するものである、オデッサ港は午後四時以來ルーマニア軍部隊の手中に歸してゐる

オデッサ陥落

【ベルリン十六日發同盟】獨軍司令部は十六日ルーマニア軍が同日オデッサを占領した旨發表した

【ベルリン十六日發同盟】獨軍司令部特別發表ールーマニア軍司令部の報告によればルーマニア軍第四軍はオデッサを猛攻、赤軍最後の防禦線を突破して十六日午後オデッサ市内に入城、市民の歡迎を受けた

外地翼賛運動の
指導者に禊修行
來月鵠沼の本部道場で

【東京發本社特電】外地における翼賛運動はそれぞれ現地の特殊事情に即して活潑に展開されてゐるが改めて外地側の要望により外地指導者層を本部道場において禊修行を行ふこととなり、その打合會がさきごろ翼賛會本部において開かれた、その結果朝鮮三十名、樺太十名、關東州五名、南洋廳五名、臺灣十名となる模樣である

その人選については現地機關の推薦によるものとし十一月十二日より五日間神奈川縣鵠沼の本部道場で内地指導者同志の練成を行ふことになつた、同時に臺灣における指導者中希望があれば外地人も參加させる豫定でありその成果は期待されてゐる